



株式会社アドウェイズ

2001年2月設立。PCとモバイル向けアフィリエイト広告事業およびスマートフォン向けの広告事業で国内市場シェアNo.1を維持するインターネット総合広告代理店。2003年より中国に進出し中国本土で最大規模のアフィリエイトサービスを立ち上げると共に、東南アジア各国へも展開。11ヶ国、19拠点で事業を展開。現在はスマートフォン向けアプリ・コンテンツ開発事業の強化も行っている。

〒163-6004
東京都新宿区西新宿6-8-1
住友不動産新宿オークタワー 4F
<http://www.adways.net/>



開発グループ
開発ディビジョン
情報システムユニット
ユニットリーダー
佐藤 達雄 氏



開発グループ
開発ディビジョン
情報システムユニット
チーフシステムエンジニア
伊藤 正之 氏



開発グループ
開発ディビジョン
情報システムユニット
金谷 直樹 氏



HRM & PRグループ
広報PRユニット
遠藤 由貴 氏

**事業の急拡大で全面的なサーバ仮想化を実施するにあたり
柔軟なサービス提供インフラとして選択したのは
仮想化専用で管理に専門知識が不要な Tintri VMstore シリーズ
導入後、仮想化基盤の高効率運用を実現し従来コストを大幅に削減**



- VMware と親和性の高いストレージを活用してビジネスの変化に対応したい
- チューニングや設定変更などを社内の管理者でも容易に行えるようにしたい
- ストレージのリプレイスによって導入・運用コストの最適化を図りたい

チューニングや構成変更の度に作業費用が発生 有効活用されないまま苦手イメージが定着

株式会社アドウェイズは、PCとモバイル向けのインターネット広告市場において、2001年からアフィリエイト（成果報酬型）広告事業を開始し、国内のアフィリエイトサービス市場ではNo.1のシェアを持つインターネット広告代理店である。中国を始めとしてアジア・北米地区にも進出し、11ヶ国、19拠点でインターネット広告事業を展開するほか、数多くの戦略的パートナーシップを提携。また、スマートフォン向けのアプリ・コンテンツ事業にも参入し、ユニークな50タイトル以上を提供している。

これまで株式会社アドウェイズは、情報システムのインフラを自社で調達・構築し、物理環境で運用を行うことを常としてきた。しかし、事業が国内外で急速に拡大し続ける中、サービスを提供するインフラシステムの拡張・変更をより短期間で行う必要性が高まった。そのため、物理環境での運用を見直し、全面的なサーバの仮想化に取り組んだ。

会社の成長スピードにインフラの構築が追いつかなくなっていたと語るのは、開発グループ 開発ディビジョン 情報システムユニット ユニットリーダー 佐藤 達雄氏だ。「これまでのような、ベンダーから機器類を調達しラッキングした上でサービスを提供するというやり方では到底間に合いません。そこで、従来の物理環境での運用を見直し、リソースの追加やシステムの変更が柔軟に行える仮想化の導入に全面的に取り組むため、VMwareでの仮想化を決断したのです」仮想化を導入するには共有ストレージが不可欠となる。しかし、そこに大きな問題があった。株式会社アドウェイズでは以前にエンタープライズ向けのストレージを導入したが、各種の設定が複雑なためストレージの専門知識を持った技術者が必要だったり、チューニングや設定変更の度に社外に作業依頼をしたりなど、短期間でシステムの拡充や変更を要する自社の運用には合わない面があった。

結局、エンタープライズ向けストレージは有効活用されないまま、敬遠されるイメージが社内に定着してしまい、その後の再導入には否定的な見方が続いたという。

求めていたのはVMwareを活かすストレージ 決め手は基本性能の高さと運用の容易性の両立

とはいえ、VMwareの機能を十分に引き出すためには共有ストレージは不可欠となる。そこで

株式会社アドウェイズでは、(1) VMwareと親和性が高いこと、(2) チューニングや設定変更などが社内のスタッフでも容易に行えること、(3) 導入・運用コストが適切であることなどを選定条件に共有ストレージの採用を決意した。

「当初は、ファイルサーバにも利用できる汎用ストレージの中から選定するしかないと諦めていましたが、2012年11月に開催されたヴェイムウェア社主催のイベント『vForum 2012』で、ノックスがVMware専用ストレージとしてTintri VMstoreシリーズを紹介しているのを知り、求めているのはこれだと直感しました」

そう振り返るのは、開発グループ デベロップメントディビジョン 情報システムユニット チーフシステムエンジニア 伊藤 正之氏だ。ヴェイムウェア社出身者が開発したTintri VMstoreシリーズは、導入において複雑な構成検討が不要な上に、個々の仮想マシンに対して自動的に適切なパフォーマンスを提供する独自のQoS管理技術を備えている点に注目。すぐさま検討することにしたという。

2013年1月にノックスからテスト機を借り受け、フル性能が出るよう負荷を掛け続けた。その結果、遅延の発生もなくTintri独自のQoS管理機能も適切に機能しており、耐障害性も高いことが確認できたことから、本番サービスを提供する共有ストレージとして申し分ないと判断。2013年3月にTintri VMstoreシリーズの採用が決定した。

決め手は、基本性能の高さと運用の容易性の両立と伊藤氏は言う。「仮想化でボトルネックとなるのが共有ストレージの性能です。Tintri VMstoreシリーズは検証段階で7万IOPSは出ていたため、条件は十分にクリアできると分かりました」

2013年6月にESXiサーバ9台分の仮想マシンをTintri VMstoreシリーズに移設し、本稼働を開始した。「導入は拍子抜けするほど短時間で終了しました。心配だった仮想マシンの移設も3日で完了し、運用開始後のパフォーマンスは明らかに高まっています」(伊藤氏)

一方、開発グループ デベロップメントディビジョン 情報システムユニット 金谷 直樹氏は、他社製品との優位性について言及する。「当社は契約データセンターでハウジングサービスを利用していますが、ラックスペースの問題が慢性化し電力供給も逼迫していました。Tintri VMstoreシリーズは電力消費が少なく、かつ筐体も3Uとコンパクトなため、データセンターのラックに他のサーバと同居させても余裕を持って格納することができ、月々のランニングコストの大幅な削減も期待できます」

同じハイブリッド型ストレージでも、他社はSSDに載せきれないデータがHDD側に落ちることによりパフォーマンスにばらつきが発生するが、Tintri VMstoreシリーズは重複排除とデータ圧縮によってアクティブデータを100%近くSSD側に配置し、アクセススピードを常に最大限に高めておくことができると金谷氏は言う。

データベースサーバをTintri VMstoreシリーズで 仮想化し数百万円規模のハードウェア費用を削減

現在ではサービス全般においてVMware vCenterによる仮想化を進めており、Tintri VMstoreシリーズはその基盤として活用されている。本稼働後、約半年を経過した時点で170の仮想マシンが稼働し、月平均で10～20のペースで増えている状況だ。

従来であれば新規に数百万円規模を掛けていたデータベースサーバ環境も、Tintri VMstoreシリーズの導入環境下ではストレージに余力があるため、積極的に仮想化基盤上に載せることができ、コストの削減とシステム全体の効率性を高めることに繋がっている。一般的な仮想マシンの統合率の1.5～2倍程度の搭載が可能になっているため、まだまだ余裕があり、これから稼働するサーバも含めると集約率をさらに高めることも見込み、さらなる導入効果が実感できそうだという。

伊藤氏は、仮想マシンの展開・複製が高速化した点を指摘する。「従来の物理サーバでは、機器の調達から構築、提供まで1ヶ月程度掛かっていましたが、現在では構築依頼から提供までわずか1時間に短縮しました。クローニング作業もVMware側で行うよりTintri VMstoreシリーズで行った方が断然速く、管理者の手間も格段に軽減されます。総合的に見て、Tintri VMstoreシリーズの導入によって従来ストレージに感じていた扱いづらいうというマイナスイメージが払拭され、ストレージに対する考え方が変わりました」

もはやストレージに関して悩まなくていいという安心感が大きく、社内では非常に高い評価を受けていると伊藤氏は強調する。

また、ノックスのサポート体制に言及する佐藤氏は、「過去に導入を見送った経験があり、エンタープライズストレージ導入に慎重になっていた当社の度重なる質問や要望にも、ノックスは辛抱強款的確に答えてくれました。営業と技術の両面から一緒にプロジェクトを成功させようという意識で導いてくれたことが今回の導入成功に繋がったと感じています」と高く評価する。

今後は複数のデータセンターを統合してグループ全体のコスト削減を目指しており、既存のvCenterだけではなくVMware vCloudを活用したプライベートクラウド環境のメインストレージとしてもTintri VMstoreシリーズを活用していく考えだ。

最後に、HRM & PRグループ 広報PRユニット 遠藤 由貴氏は今後の展望を「アドウェイズは今、グローバル企業になるべく、アジアや北米地域など10ヶ国へ進出し、スマートフォン向け広告事業を中心に展開しています。また、並行して新サービスの企画や開発にも積極的に取り組んでおり、そんなアドウェイズの攻めのマーケティングを支えるためには、柔軟に対応できるインフラが必要不可欠です。今後もアドウェイズは歩みを止めることなく、アジアだけでなく全世界に向けて質の高いサービスを提供してまいります」と力強く語った。

発売元

nox ノックス株式会社
www.nox.co.jp

本社 〒152-0023 東京都目黒区八雲2-23-13
Tel. 03-5731-5551 Fax. 03-5731-5552
西日本支社 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-8-17 大阪第一生命ビルディング15階
Tel. 06-6147-2395 Fax. 06-6147-2396

●本製品に関するお問い合わせ：営業本部
●メールでのお問い合わせ：tintri@nox.co.jp

お問い合わせ先